

昭和四十二年九月招集

第三回市議定会定例会会議録(第一号)

館山市議会第三回定例会会議録(第一号)

昭和四十三年九月招集

一九月二十七日(金曜日)

一現在議員三十名でその氏名次のとおり

一番	吉田勇治郎	二番	石井輝久
三番	嶋田石蔵	四番	伊賀多朗
五番	藤田益治	六番	磯辺博
七番	白熊盛太郎	八番	黒川正
九番	三幣勇	一〇番	西村真次
二一番	菊井敏博	一二番	小柴孝
一三番	山田教宇	一四番	遠山ヨネ子
一五番	石井正	一六番	五十嵐昇
一七番	江田徳太郎	一八番	安西益男
一九番	島野茂樹郎	二〇番	中村省吾

二一番 関 武夫 二二番 小澤恵太郎

二三番 飯田義男 二四番 田中祿郎

二五番 田村源治郎 二六番 秋山大三郎

二七番 安次徳順 二八番 望月照正

二九番 鈴木市蔵 三〇番 山口 康

一 議事日程(第一号)

第一 請願書

第二 通告質問

議案第六四号 館山市消防本部および消防署の設置等に関する

する条例の制定について

議案第六十五号 館山市非常勤消防団員に係る限取報償金の

支給に関する条例の一部を改正する条例の

制定について

議案第六十六号 館山市漁港管理条例の制定について

議案第六十七号

館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置
条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六十八号

館山市国民健康保険直営診療所使用料条例
の一部を改正する条例の制定について

議案第六十九号

市道路線認定について

議案第七十号

館山市奨学資金貸付条例の制定について

第三議案第七十一号

心身障害児童に対する助成に関する条例の
制定について

議案第七十二号

館山市附属機関設置条例^等の一部を改正する条
例の制定について

議案第七十三号

館山市児童家庭保育に関する条例の制定について

議案第七十四号

昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第三号)

議案第七十五号

昭和四十三年度館山市南部簡易水道特別会計補正予算

(第一号)

議案第七十六号 昭和甲三年度館山市国民健康保険特別会計補正予

算(第一号)

一 法第百三十一條による出席説明員

市長 本間 謙

助役 畠山 伝

収入役 高木 哲三

秘書課長 小倉 登男

人事課長 小沢 正治

企画課長 谷貝 茂生

庶務課長 山口 実

財政課長 長谷川 宏治

市民課長 羽山 房雄

調査課長 石渡 東

収納課長 横溝 功

農林水産課長補佐

石井

謀

豊崎 五三男

商工観光課長

山田 俊康

土木課長

飯田 右男

建築課長

池田 春雄

衛生施設課長

大嶋 重義

保健衛生課長

綱島 憲治

福祉事務所長

池田 亮山

教育課長

押本 禧逸

教養庶務課長

干場 伊左門

学校教育課長

遠藤 一郎

社会教育課長

源間 利一

消防課長

星野 清之助

消防本部次長

岩田 実

警察管理委員會

鈴木 力

書記 長

館石 勘治

監察委員會

畠山 市治郎

農業委員會

野中 圭太郎

事務所事務局長

太田 博雄

市民セラー館長

一本議會事務局長局長補佐書記及云取員

事務局長 高梨 清一

事務局長補佐 高尾 豊

書記 兵藤 恭一

同 庄司 徹

同 錦織 睦子

同 島田 守

出席議員 二十八名

欠席議員 二名

議長(吉田勇治郎君)本日、出席議員数 二十八名

ニハシリ第三回市議会定例会を開会いたします。

本定例会、議案審議、必要上、地方自治法第百二十一条、規定による出席要求に対し、本間市長、畠山助役、高木
収入役、小倉課長、谷貝課長、山口課長、長谷川課長、
小沢課長、山田課長、池田課長、飯田課長、伊藤課長、
羽山課長、石渡課長、横溝課長、池田所長、綱島課
長、大嶋課長、太田館長、館石局長、畠山局長、石井課長、
補佐、豊崎課長補佐、鈴木書記長、野中事務長、
星野消防長、岩田次長、
押本教育長、干場課長、遠藤課長、源間課長、
佐々木監査委員以上、者が出席する旨の報告がありました。

議案を配付いたします。

(議案配付)

議長(吉田勇治郎君)配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

会議録署名員の方定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に二番議員小柴孝君
一九番議員島野茂樹郎君以上両君を指名いたします。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。さうで決定いたしました。

会期の方定を行ないます。

本定例会の会期につき議会運営協議会の方意見は本九月
二十七日より十月二日まで六日間ということであります。
おかけいたします。

会期を六日間と決定するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よって会期は九月二十七日より十月二日まで六日間と決定いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
ニ、(本定例会、案件につき、市長の説明を求めます。
(市長登壇)

市長(本間譲君)提案事項につきまして御説明申し上げます。

本日ここに九月定例会市議会を招集いたし付議すべき事件は一般関係で十件、予算関係で三件であります。二、(が御審議をわすれられますが、会議に先立ちまして、過日の臨時市議会、際御承認をいただきます。

ました館山市 富浦町及び三苦村 学校給食組合の設置についてでありますがおかげさまで県より組合の認可も九月二十四日づけ県指令第二一九号をもって認可がございまして、こゝが議会に御報告を申し上げることもに、こゝが組合議員の選任をこの会期中にお願いしたい所存であります。

さて一般議案といたしまして、まず消防関係といたしまして消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定であります。こゝは消防組織法の規定するところにより従前個々に制定されて、いまは条例を法令の規定により整備し改正しようというものであります。また消防団員等の退職報償金に関する条例の一部改正であります。こゝは今回法律の一部改正に伴い多年消防の任務遂行に殉じてきた非常勤消防団員に対する退職報償金を

最高七万円を八万円に引き上げ最低三万円を三万五千円に改め日頃の労苦に報いるものと、昭和四十三年四月一日にさか上り退職した非常勤消防団員から適用するものとございます。

次に水産関係としまして漁港管理条例の制定であります。これは水産庁等より最近、漁港施設である基本施設及び機能施設の整備伸展に伴い、これが占用または転用等の特別使用関係がとみに多くなっている現況にかんがみ、これが適正な管理なくしては漁港の維持管理は困難となるので、これを市町村のもとに管理区分を明確にして適正な執行をはかるために国、県、指導により、管理条例を制定し、執行して、いこうとするものとあります。次に観光関係といたしまして鳩山荘に係る休養施設設置条例の一部改正であります。これは厚生省

国立公園局長通知により、国民宿舎の利用料基準改定により、全国民宿舎の標準料金として、宿泊料等について五十円ほどの値上げ、適正な料金なくしては、国民宿舎の運営が困難になり、利用者に対する所遇の低下となるものとの見解から改正をお願いしようというものであります。

次に保健衛生関係として、国民健康保険豊後房直営施設の利用料一部改正であります。これは診療場所における診断書及び証明書や交付について従前五十円、文書料を徴収することになったのを、県下病院医師会等の均衡から、百円に改めようというものであります。

次に土木関係として、市道路線や認定であります。これは国道一三七号線、地内、湊及び川崎地内の改修

により、国が維持する必要のなくなった旧道、管理を市に多すこととなります。

市内船形地区内の船形港、丸山線、市道路線の認定であります。

次に福祉関係といたしまして、奨学資金貸付条例、心身障害児、ためり特設殊学級に就学する児童に対する助成に関する条例の制定であります。これは市内に住所、本籍等を有する高等学校以上、に在学する成績優秀な生徒であつて、経済的に恵まれないものについて、高校生月額三万円から、大学生八万円の幅をもつて、奨学制度を樹立し、これが優秀生徒の向学を道を開こうとするものであります。またこれが制度に合わせて心身障害児に対する特設殊学級に就学する児童について、毎月小学生について四百円、中学

生について七百万、その他補装具等、助成も考慮し、これが児童に勉学教育の機会を与え、児童の福祉をはかるうとするものであります。

なおこの奨学資金貸付制度は昭和四十四年四月一日から施行の運びとなるわけでございます。

次に人事関係として、付属機関設置条例等、一部改正であります。が、奨学資金制度の実施に伴い、これが資金貸付選考委員会、設置について、委員の構成、任期等について規定し、また、この委員の報酬のほか、民生委員推薦委員、選挙管理委員補充員の日額報酬を改め、新たに支給できるように一部改正をしようというものであります。

次に児童家庭保育に関する条例の制定であります。が、市内の児童三才未満児を対象として仕事、

関係、または疾病等、都合から家庭保育を委託あつせんを希望する者と、こゝろ児童の家庭保育に熱心と愛情ある家庭婦人との間に適正なあつせんを行ない、この児童家庭保育委託者に予算の範囲内において、必要な助成を行ない、児童の心身ともに健全な育成と福祉をはかりうとするものであります。

次に一般会計補正予算のほか二件、特別会計の補正をお願いするわけであります。一般会計においては、今回二千八十三万一千円の追加をお願いいたし、歳入歳出それぞれ十億九千二百十九万九千円となるわけでございます。が、各費目中、おもしろものは、総務費関係で専用自動車購入費、百九十五万円、民生費中、青年館建設費及び、こゝろ備品購入費等、三百六十六万円、衛生関係で、南部簡易水道特別会計繰り出し、二百六十六万円。

商工費中 観光案内所工事 六十万円 城山公園観光施設
 設駐車場工事 二百万円 土木関係では踏切廃止に伴
 う側道新設工事 百九十万九千円 道路用地購入等
 百七万九千円

教育費関係では三市町村学校給食センター分担金 三
 四万六千円ほか 房南中学校理科室視聴覚教室備
 品購入七十一万円等であります。こからの財源を特定
 財源三百三十四万七千円をもちて他を一般財源に充当
 しようというものであります。なお、この予算に含わ

せて債務負担行為の補正として財団法人館山市
 開発公社に係る損失補償の額を四億円の増額を
 お願ひ。また国り財政計画に伴い地方債の変更
 について指示があった漁港整備分担金事業債二百
 万円の追加に伴う変更をお願いいたします。次第であります。

次に特別会計補正としまして南部簡易水道事業特別会計の補正と国民健康保険特別会計の予算の補正をお願いするわけでありますが、まず、南部簡易水道については千百六十四万円の減額をお願いいたし工事の進捗状況と国、県、財政計画に基づく継続費の変更、地方債の変更を求めようとするもので、これに伴い建設事業費に千六百三十万円の減額、公債費四十万円の減額となります。

なお水道管理費につきましては、これから水道施設の進捗に伴って給水工事及び一般管理費等、五百万円の追加をお願いしようというものであります。が、財源を一般財源により充当しようというものであります。

また国保特別会計予算の補正につきましては、千葉大学主催による第三十回日本臨床外科学会寄付金十

用ゝ予算追加をお願いいたく存する次第であります。
次にこの会期中、九月三十日をもって任期が満了いたしま
す。教育委員二名の任命に於て追加議案といたし
まして上程する見込みであります。よろしく御賛
同をたまわりますようお願いする次第であります。
なお詳細については関係課長をして説明させますので、
慎重な御審議をたまわり御賛同を切にお願い申し上
げる次第でございます。

議長（吉田勇治郎君）以上で市長の提案理由の説明を終
ります。

日程第一 請願書を議題といたします。

（書記朗読）

議長（吉田勇治郎君）本請願書に関しまして紹介議員の
趣旨説明を求めます。

二三番議員御登壇願います。

(二三番議員 登壇)

二三番(飯田義男君)ただいま議長から申されました請願書について紹介議員を代表いたしまして趣旨を御説明申し上げます。

本請願書はただいま朗読いたしましたとおり、大石から神余に通ずる道路に国鉄バスを定期運行していた
だきたいという陳情でございます。

もちろんこの陳情については地元民が国鉄バスに対して強
かな嘆願をいたしまして、カーながらその状況がな
かなか困難である。これは地元民だけの力ではなかなか
むづかしいということから市並びに市議会に御協力をお願いする
という意味で請願書を提出になったわけでござい
ます。

御承知のとおりあの道路は昭和三十三年以降足かけ十一年にまたがりましてバスを入れるという目的で道路の拡幅をいたしましたわけでございます。

その当時国鉄バス最高首脳部でありました自動車局長当時は関東自動車営業事務所長と申しましたが、にも連絡一館山自動車営業所にも連絡してあそこは道路を広げればバスを入れることは簡単である。こういう言質を過去八年にまたがりずと取ってきたわけであります。従って地元民は一日も早くあそこをバスを入るために道路を広げようということと非常に苦心したんであり道路がもうよく拡幅さしたわけでございます。ところが状況変化をいたしまして最近国鉄が非常に経済的に政府から占められて赤字路線はふやさないという方針だという一つの

理由でこの線は入れないという考え方に立ってあるように
ございますけれども、政府のバス営業方針の中で、私た
ちタクシーも同じもつてございますけれども、全体が収支
のバランスから考えてなるべくもうからないところでも、公
共性のある仕事であるから僻地に対しても路線を設
けて運行して地域住民の利便をはかれば、こういう趣旨の
もとにわけわけタクシーも営業してあるわけでございます。
もちろんバスはそれ以上に、こういう義務を負わされてある
わけでございます。

あそこは現在バスが運行されておられませんけれども、ここに書
いてありますように、特に小中学生の登校、下校が非
常に困難をしておるわけですよ。

中学生あたりになりまして、と大きいから大丈夫でしょうが、
小学生は嵐の日には親たちが送り迎えをしておる。

ーかも着物を二枚持てて学校にいて着がえて勉強
してまた帰ってきて着がえる。こういうふうに非常に苦
勞をしてゐるわけでございます。ことに最近ごにもバス
や交通の便利がよくなつてゐるにもかかわらず、ひとりある
地域、人たちだけがバスや運行がないということに対する
ひがみということであつて非常な宿命的な苦しみと
味やつてゐるわけでございます。

そういうことから、この請願書がよさうなわけでございますが、
どうかこの問題についてはまた多分困難性はあると思
います。以上、情状御覧ください。まゝて皆さんが
御理解をいただき、この請願書を採択さしまし
て強力なる援護をお願い申し上げたい。こういうふう
にお願いする次第でございます。

はなはだ簡単でございますが、以上をもつて説明を

終ります。(拍手)

議長(吉田勇治郎君)説明を終りました。

本案に付いて、質疑を求めます。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本請願書を採択するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。

●まづ本請願は採択と決定いたしました。

なお本請願書の取り扱いに付て議長において請願の趣旨を十二分に体しまして、市当局並びに関係者に対し適切なる処置をとることにいたします。御了解をお願いいたします。

日程第二、通告による行政一般質問を行ないます。

かねて申しあわせ協定の二十五日正午までに通告がありました。
た議員は一人であります。

一八番議員 安西益男君 御登壇願います。

(一八番議員 登壇)

一八番(安西益男君)私は今回二点に関しまして市当局を考
えをお尋ねするものであります。

まず一点といたしましては児童交通公園の設置を要望
について、こういうことでございまして交通対策は今も各方面
におきまゝ研究その防止策も実施さふつありますこと
は周知のとおりであります。

一カーナガワ交通戦争の激化についていたいな子供
事故はふえる一方であり。ただ、多少の知識を教える程
度では現今の激しい交通事故を切り抜けることはまことに
至難であると思われるのであります。

子供を交通事故から守るということは子を持つ親の芝通の
悩みであり願ひであると思つてあります。

館山市の現状を見ましても市の中に街の現状は交通量の
増加に伴い道路はますます狭まら少く空地も自動
車の置場に占領され子供が安心して伸々と遊ぶところ
が見当たらず一体いかに憂えるのでございます。
かかるとき北条小学校跡に是非とも児童の公園を作つて
ほしいという地元住民の方々の要望を最近一ぱり聞く
のであります。当然な願ひであると思はれるのでござい
ます。現在各地の都市に^{連続}交通児童公園が設
置されておる。各方面の現状を見まするとたとえば、埼
玉県行田市、或いは神奈川県平塚市、東京におきま
しては太田区等におきましても強い請願運動により
まして、こゝらが実施されてきている状況であると聞いて

おります。

なお児童公園の内容等につきましても、これは本物、そ
つくりの交差点用信号機、道路標識横断歩道、
なお空地等には芝生等を配慮し、子供の天国として
非常に好評を博しておるといふようなことでございます。
児童を交通事故から守るといふために子供が遊ぶながら
自然のうちに交通知識を身につけていく。生きた交通教
育の実施こそが急務としまして、この実現を強く期えて
参りたいと思つております。

第二点といたしましては、小学校に暖房施設をと、うこと
でございます。

この問題につきましても、当局におきましても検討さ
れておるやに伺つておりますが、初める冬には当局が実施
が待ちきれず、小学校三年生を対象に独自で実施す

る計画を進められておる小學校もございます。

どう學校を見ましても校長室・職員室等には暖房の施設が見られるのであります。当然大人が寒ければ同じように子供にとっても切実の問題であると思つてあります。

市原市等におきましてもだいぶ前からこのような施設がほとんどござい、環境のもとに教育がほとんどござい、おるといふように伺っております。

当市におきましては、この実施を強く要望して参りたいと思つて、当局にお考えを伺がわせていただきたい。以上二点、点につきましてお願いいたします。

議長（吉田勇治郎君）通告に対する答弁を求めます。

（市長 登壇）

市長（本間譲君）安西議員さんの交通安全公園設置について御要望でございますが、北条小學校は来年

再来年より予算で移転するわけでございまして、あの
使用につきましてもいろいろ當時は教育委員会の方で
はあゆを売って新しい学校に費用にしよう。三三いう
決議も當時あったと思いますが私は将来の館山市を
考えた場合にあゆをやはり今より交通難とかいろいろ
ろの面からして市民に慰安ができる公園を作ったらどう
か。三三いうふうに考えておりまして。その中には青ヶ年
老人の方々に慰安をするような場所とか、図書館が、
向三三にありますけれどもあゆを公園の方に持ってきたら
どうか。音楽堂。三三いうものを作っていったらどうか。三三
考えておるわけでございます。

今、安西さんより交通安全公園ということもお話のように千
葉市で最近やったそうでございしますが、館山市におきまし
ては、まだ、そこまでは経済上の理由、教育上の問題

がございまして、参らないんですが、現在は学校教育の中、
でも交通うことについてはやっておるわけでございますが、また
関係機関とともに交通安全教室ですわ。と開きまして
いろいろ指導しておるわけでございますが、子供と母親の交
通安全教室とか、或いは自転車や安全な乗り方教室と
かやっております。四月から幼稚園・保育園・小学校等
で三十八回ほど実施しておるわけでございますが、非常にい
いこととございますけれども、今すぐに実施するというよう
なことはまだ考えておらないわけでございます。これから
研究はしてみたいと思ひますが、そういうふうに御了承
願ひたいと思ひます。

それから小学校の三年生まで、暖房を作る考えはないか。
こういうことでございますけれども、私に考えは古いかもしれませ
んけれども、いわゆる南国館や、やしろ並木の南国ヘッドや

館山というところであるわけでありまして、また冬も菜種
の花が咲くという歌が館山市の方面の気候でござい
まして、私は小さい時から、さういふふうな暖房なんかは子供
を入れて教育をするという事は、私は納得がいかない。

暑いことにも、寒いことにも耐えられる子供を、心身ともに健
全な教育をするというたてまえから、カー、体、悪い
人は別です。普通健康な児童でありましたら、房州
におきまして暖房なんか、さういふかえって虚弱になりは
ないか。何か所か、やっておるようですが、私はさうでなく
やはり房州は気候に恵まれておりますから、さういふ寒さに
も耐えて勉強する、という体力を養成して教育をする。
さういふことが私は望ましいと考えておるわけでござい
ます。房州では我々に、さういふ冬の間でもオーバーを着なくて
も、何でもないさうな気候ですわ。鋸山、保田から木更津

の方になりますと、非常に風が冷たいけれどもトンネルをくぐると暖かいということでございますから、寒い日もございますし、けいども、それほどいうことで温室的にしては、子供が体力をむしろ弱めるのではないかと私は考える。

そういう面におきまして、安西さんにはわかるけれども、私としては、暖房を小学校の生徒にするということについては、どうもそういう気になれない。そういう方針は私としては取らないと考えてございますから、その点、あしからず御了承願います。

二八番(安西益男君) 児童交通公園に關しましては、市長さんへ回答にありますように、まだ運ぶになっていない。

考えがそこまでいて、むいというふうなお話でございます。が、ご存じのように、館山市の中心街等を見ますと、先ほど申し上げましたように、本当に子供が遊ぶ場所がない。

こゝは切実に親として頭痛の種であるということは事実であります。また交通教室とかいろいろ特にさふております。現在でもいろいろ防上策については研究さふておることともこゝまた事実でありますが、そういうことが実施さふつあるにもかかわらず、子供に対する事故というものは確かに増大しております。具体的なさういった防上策ということは單に今までなさふておることだけでは不可能ではないか、こゝさうに強く感ずる次第であります。こゝは他のさうした施設がある都市等を十分検討さふますます、館山も繁華街に對してさういふに配の面が現実に現わさふてくるということも当然予期していかなければならぬいふでいいいか、こゝさうに思ひさふてありますし、また期間的にも北条小学校の跡というような要望でございしますので、十分こゝいった点を御考慮願ひましてさうさう

な運ぶになることが、また世論が高まりということも当然考
えていかねければならない。このようにも考えるものであり
ますし、十分そうだった点で御検討願いたいと思います。
またこの点等におきまゝて当局といたしまして他、都市
等を検討されたことがあるかどうかという点につきましても
お伺いしたいと思います。

市長（本間譲君）交通公園につきましても、さう話は伺て
おりますけれども、まだいろいろ教育的にももつとものと
急を要する問題もありますし、さうことを聞いてある
程度でございしますが、これを機会にまたさう方も検討
していただきたいと思ひます。

果におきまゝて果下何ヶ所かに交通センターをちつと建いま
すか、作るということでありまして、館山市も去年の五
月に関係町村と館山市に設置置いていたのだと

いう要望も一たんですが、なかなかそれは財政が豊上
 かで敷地を提供し、もう、金を出し、もう、千葉市
 あたり敷地を一万坪、銚子でも金を出すと、いうこと
 もあってなかなかですが、こゝにつきましては、引き続き
 誘致をしても、し、そう中ででもできる、うなことであれば
 考えて、いただければ結構だと思ひますが、いづれにしま
 しても交通問題は非常に重要でございますから、考
 えて、いかなければならぬと思ひますが、児童遊園地を果
 とともに現在、ゑ、おります。子供、遊び場、というのは
 きわめて大切でございますから、そこについても、いろいろ、
 おります。が、交通公園についても今後研究して、その方向で
 進んで参りたいと思ひます。

一八番(安西益男君)ただいま研究して、その運ぶに、という、うな
 市長さん、から、お策で、ござい、た、う、て、十分、その、うな

方向に持つていていただきたい。かように感ずるわけであり
ますが、経済面というふうなお話もございましてですが、
こゝはやはり他市等々施設に対する費用等を見ま
すると五百万から一千万或いは一もつと大きな都市におきま
すとは、二千万というところも見受けらるものであります。
大体五百万或いは六百万ぐらいで相当立派な施設がで
きておるようであります。

場所等におきましては、こゝは先ほど市長さんが申さ
ましたいろいろな一般的な公園でも十分あつただけの施設
はできると思ひますので、十分なる御研究くださいまして
何とか一つ、実現さしますように強くお願いしていきたい
と思つてゐるわけでございます。

次々小学校の増設につきましては、市長さんや南國会
の館山には必要はなからうかというふうなお話でございます。

が、実際にあり寒空に質実剛健という面からいいます
れば、寒さにこたえていく児童を作っていくということも
一面、当然考えらるわけでございますが、実際問題とい
たしましては、時代的な感覚といたしまして、か、実際
に児童等を見ておきますと、寒さにふるえながら勉強
しておるといふことから、PTAあるいは父兄等から何と
か、そのような方向に持っていくだけではないものがあるか
というふうな要望等も最近出ておるといふ現状であります
ので、私も重ねて十分御研究願いたい。以上をもちま
して終りたいと思います。

議長（吉田勇治郎君）以上をもちまして通告質問を終り
ます。

午前。会議はこゝにて休憩といたします。

午後は一時開会といたします。

午前十一時十三分

休憩

午後一時五分

再開

議長(吉田勇治郎君)午後、出席議員数 二十二名

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三議案第六十四号乃至議案第七十六号を一括上程し、(二より)右議案の内容説明を求めます。

議案第六十四号

(書記朗読)

議案第六十四号 館山市消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定について

消防長(星野清之助君)議案第六十四号について御説明申し上げます。

議案第六十四号は館山市消防本部及び消防署の設置等
に關する条例の制定についてでございます。

御案内のとおり消防本部、それから消防署、消防団、こ
三者をもつて成り立っておりますところ、現在、消防制
度は戦後昭和三十二年、それから警察、所管のもとに
ございました。警防団が消防組織法と申します、いわゆる
消防の根幹をなしております。法律の制定に伴いまして
市町村の責任のもとにこれを自治体消防として新たに
発足したものでございます。自來二十余年の間、その組
織法と申します法律は十七回の改正を見ておりまして、そ
の間、消防の整備強化をはかつて参つたものでござい
ます。ことに先般この組織法が改正された際に、ここにもござ
います。消防本部、消防署の設置、それから位置
名称、そして消防署の管轄区域という消防組織制度

の火綱につきまゝでは市町村の条例によって決定しう。

その他消防本部や消防署の内部的な組織面につきましても、これを市町村の規則によつて定めろというところが明確にうたわしたわけでございます。

それに基づきまして今回この条例案の御審議をお願いする。こういう段取りに相なつた次第でございます。

中身は従来と変わりがありません。省略いたしますが、この新条例制定に伴いまして従来消防本部に関する条例、それから消防署に関する条例を廃止する。そして細部はただいま申しましたように市町村の規則によつてきめていく。こういうわけでございます。以上でございます。

議長（吉田勇治郎君）議案第六十五号

（書記朗読）

議案第六十五号 館山市非常勤消防団員に係る退職報

償金、支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について

消防長（星野清一助君）議案第六十五号について御説明申し上げます。

本案は館山市非常勤消防団員の退職報償金、支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

退職金制度でございますが、この制度は昭和三十九年に発足したものでございますが、その制度の趣旨でございますが、多年消防の任務に従事する労苦をいろいろせらるゝいた消防団員の方々にお報いするため、それから方々所遇改善の一環としてこの制度が発足したわけでございます。発足してから四年ばかりになるわけでございますが、その間一回も引き上げがなかったわけでございます。

先般法律関係法令にございますところの消防団員等公務
災害補償等共済基金法と申す法令関係のその政令が一
部改正さ小ヨリてその改正に伴いまして掛金より引き上げ、そ
れから階級区分の増設、それから支給額も増額という
三つの点が改正さ小ヨリてそれに伴いまして、条例の改正を
いたすということになった次第でございます。

内容的に御説明いたしますと一番低い方で五千円、高い方
で一萬五千円の増額ということになっております。

ここにございますが、たとえば団長五万円が十五年以上二十
年未満の場合、五万五千円、あと副団長いろいろございます
が、とにかく五千円から一萬五千円の増額になるということで
ございます。

さらに別表中の階級区分の点が増設さ小たわけてございます。
団長、副団長とございます。分団長、部長、及び班長、こう

いうことになっており、またのを分団長を分離いたしまして別にワケを設けたわけでございます。

団長 副団長 分団長 部長 及び班長 団員 従来より四階級を五階級にいた。こういうわけでございます。

それから掛金でございますが、一人二百六十円、増額になりました。従いまして四百七十名、人員に対して、半額にいたしますと、十萬二千円ということになるわけでございます。非常に消防団の方は御苦労をいたしておるわけでございまして、国の方でも、こういうことをお考えになつて、こういう措置をたされたものと存じますが、よろしく御審議のほどをお願いいたします。

議長(吉田勇治郎君) 議案第六十号につきまゝでは朗読省略要点のみ御説明を願いたいと思ひます。

農林水産課長補佐(豊崎五三男君) 館山市の漁港管理系

例を御説明申し上げます。

第一条は目的でございまして、館山市が管理する漁港です。から第一種漁港、西岬地区だけ、漁港が対象になります。その維持管理について定める。

第二条は漁港施設、維持運営でございまして、館山市の管理する漁港施設、甲種漁港施設、防波堤とか護岸、物置場、輸送施設、鉄道、橋梁、公共施設用地について、維持管理、必要な事項を定める。

二項はそれ以外、施設を乙種施設といまして、当該施設、所有者に対し、維持運営計画、その他必要な資料を求めて必要な事項を勧告することが出来る。

三項は甲種漁港施設運営規約、また乙種漁港施設、所有者、もしくは占有者に対して、勧告をする場合には、漁港管理会が置かれていますところは、その意見を聞く、現在、

ところ設置されておられません。

第三条は条文通り御説明する事項はございません。
第四条は港内、秩序維持、これも条文とおり、別に説明する事項はございません。

第五条は停け泊禁止であります。が、条文とおりで別に御説明する事項もございません。

第六条は危険物等の制限でございますが、これも条文とおりで別に付け加える事項はございません。

第七条は放置物件、除去命令、これも条文通りで付け加える事項はございません。

第八条はけい留施設における行為の制限、これも条文とおりで別に御説明するような事項もございません。

第九条でございますが、陸揚輸送等、区域における利用、調整でございますが、これも条文とおりで別に御説明

する事項もございません。

第十条が利用の届出でございしますが、こゝも条文上とありて別に付け加えるところはございません。

第十一条が入出港の届出でございしますが、こゝも別に付け加えて御説明するところもございません。

第十二条が占用の許可等でございしますが、こゝは市長の許可を受けたものについて、工作物にあっては一年でその他のものについては一月もこえることはできない。市長の許可を受けた場合には更新できる。

それが終った場合には自己負担において原状に回復しなければならぬというふうなことでございます。

第十三条は地位の承継の制限、こゝは占用許可をもらったものがなくなつた場合、占用許可を取つてゐる会社が合併した場合には、その人がなくなつた場合には被承継人が得た

地位を承継するのだ。

二項の場合には許可を取らない人の場合には、前項に
いう承継はできないのだということでございます。

第十四条が占用料の徴収でございますが、これは法三十五
条によつてそういうものを取つてもよろしいという規定に
なっておりますので、今回別表によつて徴収したいという
ことでございます。

最後に別表がありますが、この別表の区分、単位、金額
については、果条例をもとにしまして、大体果条例と同じよ
うな内容でございます。

第十五条が監督処分でございますが、許可を受けた
ものが違反したとか、許可条件に反したとかいう場合には
工作物等は撤去させるのだ。あるいは原状に回復させる
のだということでございます。

第十六条が公益上り必要による許可ヲ取り消し等及び
損失補償でございしますが、漁港修築工事をするため
にどうしても必要なんだという場合には許可を受けたもの
に対して取り消しするとか、条件を変更させるとかいう
措置を命ずることができるのだ。それから二項の場合に
そういう処分を受けた場合には通常負うべき損失を
市が負わなければならぬという項でございます。

第十七条は罰則でございしますが、第一項号から五号までに
該当するものについては罰金が掛けられるということではござい
ます。

第四条の規定による市長の命令に従わなかったもの、という
のは港内、秩序を乱すものはけい留り移動を命ずる
のだ。移動を命じた場合に従わなかったもの、第五条
の二項でございしますが、停けい泊禁止区域禁止された

ところに停泊したという場合でございます。

第六条より一項は爆発物とか危険物を積載した船が市長の指定した場所以外に停けい泊してはならないのだという事でございます。

二項は危険物等の荷役についても市長の許可を受けなければならぬ。そういう事になった場合でございます。

七条の規定による違反でございますが、漁港区域内の水域の著しい阻害物件があつて、除去命令が出ておつてそれに従わなかった場合。

第四号、第八条はけい留施設における行為の制限に違反した場合。

九条が魚獲物等陸揚を終つたならば、すぐ指定された区域に出なければならぬ。それを出なかった場合。

十一條は入出港を届出なければならぬ。それを出さなかった

場合

十二条の一項は占用許可を受けなかった場合

五号は監督処分に関する反った場合、十六条の方は漁港修築とか漁港工事その他ために許可を受けたものが、撤去命令が出た場合にそれに従わなかった場合でございます。

十八条は補則でございます。必要な事項については別に市長が定める。この条例は公布の日から三十日を経た後施行する。これは条例が通りますと農林大臣に申請し、まして農林大臣の許可があつて告示してからという事で三十日経過した後という事でございます。以上で説明を終ります。

議長(吉田勇治郎君)議案第六十七号

(書記朗読)

議案第六十七号

館山市厚生年金保険被保険者休養

施設設置条例の一部を改正する条例

の制定について

商工観光課長(山田俊康君)議案第六十七号について御説明申
し上げます。

本案は午前中、市長の提案説明にも申し上げましたように
厚生省の通達により実施しようとするものであります。

厚生省でいっております理由は先づ料金改定から一半半を
経過した今日人件費、物価等、高騰により現行料金では
国民宿舍の運営が困難だ、利用者の所遇が低下する
おそれがあるということ、で今回料金改正をするのだということ、
通達が参っております。

なお県下の国民宿舍支配人会議がありまして、その席上で
一応全県下一斉に十月一日を期してこの通達通りに

値上げしようではないかという申し合わせもできまいた。

今回提案—まいた条例中第五条一項中「三百円」を「四百円」というのは宿泊予約金であります。

従前国民宿舎に予約される場合には予約料として三百円の予約金を納めていたについておりまいたのを十月一日からは四百円にしよう。

五条の二項中「七日」を「五日」に改めといいますのは、予約金を納めていたについて七日前までに予約を取り消したした場合に全額還付するという規定であります。

それを今回ゆるめて五日前までに予約取り消しし通知を—たものは全額還付するというふうに変更する。

同項の二号を削り、二号を三号に—うのは、二号は従前の規定ですと五日前までに予約を取り消した場合、三分の二をお返しする。それを取って—うって、三号の方は三日

前までに予約取り消しをした場合には、二分の一の額を
還付するという、こいだけをしよう。要するに事務が簡
素化をはからうということでもあります。

それから別表中の宿泊欄のうち大人四百七十円でありました。
こいを五百円に三十円値上げ、中学生二百七十円、こいを三十円
値上げ、~~こい~~三百円、小学生二百二十円を二百五十円、宿泊費
で三十円、値上げ。

食事欄で百四十円とありますのは朝食、こいを十円値上げ
して百五十円、夕食三百四十円、こいを十円上げて三百五十円、総
計で従前一人一泊九百五十円でありましたものを千円に中
学生七百五十円でありましたものを八百円、小学生七百円を七
百五十円に改正しようというものであります。

なお、附則の一項は十月一日から実施したい。

二項は従前納められておりますので、もうすでに予約金三百円

納めております。もつては今度、条例改正によらず、従前のまゝ規定で三百円で受け付け、追徴金、百円を取らないという規定であります。以上であります。

議長（吉田勇治郎君）議案第六十八号。

（書記朗読）

議案第六十八号 館山市国民健康保険直営診療所使用料

条例の一部を改正する条例の制定について

豊房診療所事務長（野中圭太郎君）第二條第二項第一号中と申しますのは、普通の診断書でございまして、恩給診断書は今まで百円でございまして、全部百円にするわけでございまして、これを削るわけでございまして。

二項中二号と申しますのは、普通の証明書でございまして、

「五十円」を「百円」に値上げしようというものであります。

以上であります。

議長(吉田勇治郎君)議案第六十九号

(書記朗読)

議案第六十九号 市道路線認定について

土木課長(飯田治男君)議案第六十九号市道路線認定について御説明申し上げます。

六五五号、六五六号につきましては、二十八年に国道一七七号線の改良工事によりまして、旧湊橋前後の旧国道敷でございまして、今までは、県で管理しておりましたが、本年度より国道は国の直轄になりますので、四月五日千葉県告示第三三九、第二四〇号によりまして、旧道は市道として存置が、認められますので、市道に認定してもらいたい旨の公文書が参りましたので、調査検討の結果、市道として認定いたそうというものであります。

六五七号につきましては、全路線幅員七メートルで改良工事が

完了いたしましたので、市道に認定し、こうというものでござい
ます。以上でございます。

議長（吉田勇治郎君）議案第七十号

（書記朗読）

議案第七十号 館山市奨学資金貸付条例の制定について
福祉事務所長（池田亮山君）議案第七十号、館山市奨学資金
貸付条例について御説明申し上げます。

まず第一条の目的でございますが、ここに規定してございま
す。よう、高等学校及び高等専門学校、大学等に修学す
る資格と申しますか、それだけの能力を備えて、ながら、経
済的理由等で、その方たちが修学、入学することが困難
だ、というものに対して、こゝに奨学資金を貸し付け、ま
して、こゝから、方々の修学を助け、有用な人材を育成するこ
とを目的とするわけでございます。

第二條 定義でございますが、二、三、条例において奨学資金とは要するに市から貸し付けます金、このことを奨学資金と申します。

奨学生とは、こゝを一般奨学生と身障者、奨学生と、二つに分けると、このことでございます。

奨学生、資格でございますが、一般奨学生及び身障者奨学生の資格は、次に掲げてございます、各号に該当する要件を備えた者であつて、高等学校、高等専門学校、及び大学に在学する者である。そうして一般について、身体強健な者で、身障者奨学生については、修学に耐え得る範囲で別に定める身体障害がある者でなければならぬ。こゝは身体障害者手帳の、ことを一応考えております。市内に本籍住所を有する者であること、性行善良で志操堅定な者、学業成績が

すぐれ就業し見込みのある者であること。経済的理由によつて修学が困難な者ということでございます。

この経済的理由によつて修学が困難であるという限界でございしますが、一応考えておりますのは、福祉年金の所得制限以下の世帯に属する者を一応考えております。その中から前各号に規定されておりますような者について、この貸し付けを行ないたいということでございます。

奨学資金の区分でございしますが、高等学校につきまゝ月額三千円、高等専門学校月額三千円、大学につきまゝ月額八千円、それ以内を貸し付けたいというわけでございます。

第二項で奨学資金には利息を付さない。元金だけを返していただければよいということでございます。

貸し付けの期間、奨学資金の貸し付け期間は第六条

第三項の規定による決定通知によつて定められた月から当該決定通知を受けた者が在学している学校に在学期間が満了する月ということになります。

なお決定は四月中に行なわれるわけになりますから、四月から卒業する三月までということになります。

高等学校で申しますと、三年、大学で申しますと四年間ということになるわけになります。

これは高等学校で奨学生として借り受けた者がそのまゝ大学に入学したしまゝで、それに対する奨学資金を

貸し付けを受けたという場合に通算七年ということになります。

改めて大学に入学の段階で選考委員会

の選考は受けるといたしても、高等学校から大学まで、通算七年間ということになるわけになります。

貸し付けの申請及び決定でございすが、貸し付けを

受けようとする者は、連帯保証人と連署の上、市長に申請しなければならぬ。市長は前項による申請があったときは、提出された書類その他について審査の上、館山市奨学資金貸し付け選考委員会より選考を経て貸し付け可否を決定し、その旨を当該申請者に通知しなければならぬ。

第七条 借用証書、提出前条第二項の規定により、貸し付けの決定を受けた者は別に定めるところにより、奨学資金借用証書を市長に提出しなければならぬ。

第八条 借り受けでございしますから当然の措置だと思ひます。第八条の貸し付けの決定、取り消し等、奨学生がいったん決定を受けまして、借り受けを開始いたしました後も、次のような事項が生じた場合には、その生じた日の属する月の翌事月分より貸し付けを行なわないものとする。こととて、

います。一死したとき奨学資金の貸し付けを受けることを辞退したとき、第三条に規定する奨学生は、資格をなくしたとき、その他貸し付けを必要としないとき、成績、移動等もあるわけでごございます。そういったものを考慮していくわけでごございます。それから、市長は奨学生が休学し、または一ヵ月以上引き続いて欠席した場合、当該事由が生じた日、属する月より翌月分から当該事由のやんだ日の属する月分まで、奨学資金の貸し付けを行なわない。要するに学校を休んだ者については一月以上欠席した場合には、その間貸し付けを行なわない。

市長は、奨学生が正当な理由がなく、この条例或いは別に定めるところにより提出すべきものとされた届、報告等を提出しないときは、奨学資金の交付を一時停止することに

とができる。要するに届出義務を怠った場合には停止する
という規定でございます。

次に返還でございます。

第九条の奨学生であつた者が当該学校の生徒を終了
した月より三月後から在学中貸し付けを年月より三倍に
相当する期間内に借り受けた奨学資金を月賦半
年賦または年賦の均等払い方式により返還しなけ
ばならない。ただし、繰り上げて返還することができるとい
うことでございます。

借り受けた期間より三倍より長きで返還していただくとい
うことでございます。

次に前条第一項の規定により貸し付けの決定、取り消
しを受けた者はすでに貸し付けを受けた総額をただちに
返還しなければならぬ。ただし、市長が情状をむと得な

いと認める場合は金額及び期間を定めて返還させるものとする。

第一項の規定により返還する場合の金額は月賦均等払い方式にあつては千円・半々賦の場合六千円以上・半賦の場合は一萬二千円以上とし、その時期は六月または十二月というものでございませう。

返還の免除 借り受け人が次の各号の一に該当したとき、死亡、不具、廃疾、災害、病氣その他を得ない事由があるときは返還の全部または一部を免除することができる。二項で身体者、奨学生に対して貸し付けた金額については返還の債務の二分の一の額を免除する。借り受けの額を半分だけ返せばいい。

十一條 返還の猶予でございませう。病氣その他事由によりまして返還が困難な場合は返還の猶予が

できるのだ。

十二条が二から返還の免除、または猶予の決定及び通知の規定でございませう。

十三条でございませうが、延滞金でございませう。返還金を所定の期日までに返還しない場合、延滞金を一日百円について、三銭の割合で計算した延滞金を払っていた、だくという規定でございませう。

その他、この条例に定めるもの、ほか奨学資金の貸し付けに關して必要の事項は、市長が別に定める。その他、細目につきまゝしては規則により、これを定めるといふことでございませう。附則でこの条例は四十四年四月一日から施行したい。

ただし、大学にかかわる奨学資金の貸し付けについては、四十七年四月一日から適用するといふことでございませう。というは、四十四年四月一日から、この条例を適用しまして

貸し出すわけでございますから、要するに当初三年間は
高等学校、及び高等専門学校のみ、に貸し付けまして
四年後、要するに来年高等学校に入学しました人が卒
業一まゝて、大学にゆき始めるとき、そのときから大学生
に対する貸し付けを行ないたいということでございます。
以上でございます。

議長（吉田勇治郎君）暫時休憩いたします。

午後一時五十八分 休憩

午後二時五十五分 再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第百一十号

（書記朗読）

議案第七十号 心身障害児童に対する助成に関する条例

修正の決定について

福祉事務所長(池田亮山君) 議案第七十号 心身障害児童に
対する助成に関する条例について、御説明申し上げます。

まず、第一条の目的でございますが、いわゆる特殊学級とか
盲学校、ろう学校、養護学校等に在学する児童、生徒
でそういった方たちの優遇処置を講ずる。要するに健康
なほかに何らかうハンディをいって勉強しておる者に対す
る勉強の経費に対してこの条例によって助成していきな
いというのが目的でございます。

優遇処置を受けることのできるものは、次の各号に対す
る条件に該当するものとする。市内に住居を有する
者、または盲学校、ろう学校、養護学校、特殊学級
に在学する者、それから経済的理由により、就学す

困難な者という事で一応考えておりますが、市民
税、均等割納付者以下、人を対象にしてその中か
ら委員会が決定によって助成可否を決定していき
たいという事でございます。

次に優遇措置でございますが、このうう人たちに助成いた
します額を小学校におきましては四百円以内、中学校に
おきましては七百円以内、それから二項で言語障害児童
につきまゝて、その器質的欠陥に依り矯正するために補
装具、治療費、及び移送費等、費用があつた場合に、
これらにつきましても、この治療と申しますか、補装具を
装着することによって就学が安易にできる、勉学するため
の助成をという事で、このうう人について、それぞれに定めた
額を支付しようというものでございます。

助成の期間でございますが、決定通知に定められた月か

ら。当該特殊學級に就學する期間、毎年度末をもって終了することとし、年度々々一年々々で決定していく。

ただし、この助成を継続することを妨げない。

申請及び決定でございしますが、これは親権者または後見人から申請していただいて長が決定するというところでございします。なお決定に当たっては、館山市奨學資金貸し付け選考委員会、選考を経て決定するというところでございします。

決定を取り消しでございします。死亡したとき、助成を受けることを辞退したとき、第二条の資格を欠くに至ったとき、その他助成が必要がないと認めたときに、この助成を打ち切る。

助成金交付、助成金交付は別に定めるところにより、当該児童の親権者または後見人に交付する。

第八条規則へ委任でございします。この条例に定めるも

のうほか、必要な事項は市長が定める。

二、条例は昭和四十四年四月一日から施行する。来年、四月一日から適用するということも、うかがいます。なお、はなはだ恐縮でございますが、七十号のときに申し落し、したが、七十号、第四号、二号で高等専門学校、門、中に口が入っておりますので、それを削ぎ、いただきたいと思っております。

議長（吉田勇治郎君）議案第七十二号

（書記朗読）

議案第七十二号 館山市附属機関設置条例等の一部を改正する条例の制定について

福祉事務所長（池田亮山君）第七十二号 館山市附属機関設置条例等の一部を改正する条例について御説明申し上げます。先ほど御説明申し上げました七十号、七十一号のそれぞれ、議案に対する条例案に対する館山市奨学資金貸し付け選

考委員会。こゝ判定をいたしたいというものであります。
委員の数は市議会議員から三人、教育関係者から四人、
福祉事業関係者から二人、知識経験者から三人、
合計十二人をもって構成したいというものであります。
こゝから委員の任期は二年でございます。

次、非常勤、特別職の職員に係る報酬及び費用弁
償の条例の一部改正であります。ただいま申し上げま
した奨学資金貸し付け条例、選考委員会、委員の日
額報酬、一千円、民生委員、推薦委員会、委員日額
報酬、一千円、こゝを従来より報酬の中に付け加えたいと
いうものであります。なお、民生委員、推薦委員会、委
員報酬、改正部分につきましては四十三年の十月一日
から施行いたしたいというものであります。

議長(吉田勇治郎君)議案第七十三号。

(書記朗読)

議案第七十三号 館山市児童家庭保育に関する条例の制定に
ついて

福祉事務所長(池田亮山君) 館山市児童家庭保育に関する条例
について御説明申し上げます。

この条例案は現在市におきまして、共かせぎ等によりまして
ところゝ家庭より子供さんをそれぞれ任音へに預け、預かると
いうことで、預かっておるが、現状でございまして、

これをいろいろ聞いて見ますと、それぞれ預かり値段と申
しますか、預かる条件等もまちまちでございまして、
これをある程度市が斡旋することによりまして、規制と申
しますか、統一制をはかって、この児童を預かる家庭を一
応把握しておきまして、申し込みを受けましてあつせんする
という方法を取ったならば、いわゆる共かせぎの子供さんたち

に寄与できるのではないかと考えまゝて提案申し上げたわけ
でございます。第一条はただいま申し上げたとおりでございます。
第二条、家庭保育受託希望者とは、児童の保育に熱心
と愛情ある家庭婦人で、次、各号に該当するものの中から
選定された者をいう。年令二十五以上、六十五以下、見
童の保育について知識と経験ある者、家庭生活が健全で
本人及び家族が健全である者、家庭に三才未満の者がなく
受諾児童の保育に専念できる者、保健衛生及び危害防止
に考慮を払い保育用具以外の器物を置かない九・九平方メ
ートル（六畳）以上、室のある者でなければならぬということ
でございます。

ただいま申しました四号の家庭に三才未満の者がないとい
うことは、自分の子供で三才未満の者が、ある場合には、両
方同じ年令の子供があると、ころにあつせん。た場合には、自

分り子供と預かる子供をえこひいきがあつてはいけないう
ことで三才未満の子供ということを条件にしておるわけで
ございます。

家庭保育の委託をあっせんできる児童とは委託希望者
の就労または疾病等のため保育する者がいない場合で
次の各号に該当する児童とする。

預けらる者の条件でございます。

生後四十二日以上三才未満、要するに勤人の産休が終った後
で三才未満の子供ということに限定したわけでございます。

市内に住所を有する児童であること、心身ともに健康な。

児童であること。 家庭保育受託希望者と家庭保育の

委託をあっせんできる児童の委託希望者が四親等以内

の親族関係にない者ということとで預け先が親戚で

あった場合それはあっせんする条件からはすきかというこ

ございます。申し込み手続でございしますが、別に定めます。幹
旋要領に基づきまして申し込み手続きを受けまして、これを
受託希望者にあつせんするわけでございます。

あつせん児童の定数でございしますが、一世帯三人以内と規定し
たわけでございます。九・九平方メートルというのを規定いた
しました。九・九平方メートルというのを児童の保育にあては
まる三人を規定したわけでございます。

保育時間、その他については市長が別に定めるということで、
これはあつせん要項の方にゆづつてございます。

あつせん要項でございしますが、保育日は日曜日、年末年始
のそれぞれ三カ日間を除く一般勤人の休みの日を除くんだ。

その他、日を一応預かるといふふうに考えております。

保育時間でございしますが、午前七時三十分から午後五時
三十分までの十時間を原則にしております。

第六条のあつてございしますが、市長は第四条の規定により申し込みがあつた場合は、こゝらの児童家庭保育の受託を希望する者、または児童家庭保育の委託があつせんが、できる児童に適合するときは別に定める児童委託あつせん通知書により通知するものとする。

それから第七条の保育料でございしますが、一応預かつた場合には、月六千円以内という線を出したわけでございします。時間外、及び保育の直接の費用については、市長が別に定める。基本料金六千円、時間外に委託した場合には、一時間について五十円ぐらいということを考えておるわけでございします。

六千円という線を出した根拠でございします。いろいろ内々に調査しておりますが、現在、館山市内でそれぞれ預けらるゝる状況を見ますと、八千円から一万二、三千円ぐらいまで

値段が現在館山市のとおり相場という事でございます。
なぜそれほど現在、状況に開きがあるかという条件による
ものだという事でございます。

八千円というは、食物等を本人が負担する。預けっぱなしの
場合には、一万二三千円。本条例が制定された後に精細な
調査は試みるわけでございますが、市、千五百円、助成を
合わせると七千五百円という数字が一応出てくるわけで
ございます。七千五百円が子供を一人預かることによりま
す。手数料と申しますか、預かり料。ふところに入る金額
になります。そこでお昼と申しますか、乳児ですと牛
乳を飲ませる代金、そうしたものを一応百円程度かかる
というふうに計算したわけでございます。

二十五日保育すると二千五百円合計いたしますと大体一
万円という数字先ほど申しました千円から一万二三千

月まで、現在市中でそれぞの契約さいて行なわれており
ますものを一万月程度まん中を取りまゝて一万月という
ところが妥当ではなからうかということ、六千月、基本料金を
合わせまゝて市から千五百月、合わせまゝて七千五百月、
食物につきまゝては現金は預け主が払うか、それはあつせ
んに基きまゝて両者にすてきめていただきたいと思ひます。
この条例に定めるものうほか、必要な事項は市長が別に定
めるといふことで別に定めるとはあつせん要領で一応規定して
参りたいといふことでございます。

この条例は四十四年四月一日から施行するといふことでございま
す。なお付け加えて申しますと、これにつきまゝて私たち千葉、現状を
見に参りましたが、まことに喜ばれてゐておるやうでござい
ます。大体これを決定いたしましたのは千葉でゐておりましたものを
一応準拠したわけでございます。なお申し落しませうと

こらう預かり家庭に對し、保育のため直接のベツトとか保育に直接必要な器具、器材を市が貸与する。

なお保健婦等巡回指導を行ないたい。かやうに考えております。以上簡單でございしますが、

議長(吉田勇治郎君)議案第七十四号。

(書記朗読)

議案第七十四号 昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第三号)

財政課長(長谷川広治君)四十三年度館山市一般会計補正予算第三号について御説明申し上げます。

第一条にお示しをいたし、まゝとあり、今回二千八十三万一千円を追加いたしました。歳入歳出それぞれ十億九千二百十九万九千円といたす予定でございします。

内容といたしましては組みかえ関係もございしますが、歳入

におきまして減額が二百万円、純追加額が二千二百八十
三万一千円、歳出におきまして減額いたします額が二百九
十七万四千円、追加いたします額が二千三百八十五万五千円と
いうことに相なっております。差し引きまして追加額が二
千八十三万一千円ということに相なります。

追加をいたします款項目ごとのものは三ページから五ペー
ジまでのものでございます。

説明は横例によりまして一ページから明細書により
御説明を申し上げます。

なお大へん恐縮でございますが、四ページの下欄に活
字の違いがございまして御訂正いただきたいと思いますと思いま
す。四款衛生費のところに二目、清掃費ということて
入ったんですが、活字の違いで「清」が「情」になっており
ますので、「情」を入れていただきたいと思います。

なお第二条に今回債務負担行為、補正を求めてございますが、これはのちほど企画課長から御説明申します。が、開発公社に対する債務補償、増額に関連をいたしまして補正をいたしますつもりでございます。

なお第三条に地方債の補正をいたしております。セブージでございますが、当初予算におきまして館山港修築事業負担金という名目で二百万円を起債申請をいたして折衝いたしましたわけでございますが、工事費の関係、起債許可の規定、上からいろいろ検討をいたしたわけでございますが、その際、漁業整備負担事業ということでは変更をいたしたかどうかというような話し合いがつかまうて、今回二百万円の内示額が漁港整備負担事業という名目で参りますので、名前を更正をいたしたいというものでございます。

続きまして一五ページの歳出から御説明を申し上げます。
第一款議会費におきまして今回十八万の追加をいたし
ました。

内容といたしましては、交際費十五万、備品購入費として
三万、若干のこまごまとした備品総額でございしますが、追加
をいたしました。

二款総務費の関係、会計管理費、旅費として一万九千八
百、追加をいたしておりますが、これは収入役室の旅費の
不足額、年度最終まで不足額一万九千円でございます。
次の財産管理費、備品購入費として百九十五万計上いた
しておりますが、専用自動車購入費でございしますが、
財政課におきまして管理をいたしております。市長車と
して配置をされており、車が三十八年度に購入いた
しまして、自來六カ年を経過いたしました次第でござい

が、過日故障がございましたので、臨時点検をいたしましたところ、車体全体に相当わるいところがあるというようなことでもございますので、市長車は長距離運行が率として多いわけでもございますので、この際新しいのを買いかえていきたいというところで計上をいたしましたものでございます。

以下は、それぞれ各主管課長から御説明申し上げます。

・秘書課長（小倉澄男君）続きまして一五ページ、総務費のうち一般管理費、この十八節、備品で図書購入費でございますが、これは国立公園並びに国定公園、写真を中心とした図書を購入したいということで一万八千円、ここに計上いたしました。

十九節、負担金でございますが、これは市内の有志が集まりまして現在百数名の会員を持っております、館山郵便局の協カ会というものがございしますが、郵便局の表札とか、住居表示とか新しい郵便番号制度とか集配人への

末年始の混雜したとき、郵便事業の推進をスムーズに
 するという事におきまして、非常に活発なる活動をしてい
 まして、郵便局の活動に協力いたしてゐるのをごさいます
 が、このたび郵便協力会の方から、いろいろ事業をやるに
 つきまして、ぜひ七万円ぐらい補助をお願いしたいという
 申請がございまして、これを了といたしまして、追加し郵
 便協力会に七万円を補助しようというものでございます。
 それから、一五ページ終りの市史編さん費の中、備品購入
 費、市史編さんも進んで参りました。たくさん古文書、文
 献等が集まっておりますので、本棚が今まではそろつた
 ニつ借用してやつておりましたが、ぜひ購入したいという
 ことで、三万円計上いたしました。以上でございます。

市民課長（羽山房雄君）同じく一五ページ十目諸費について御説明
 申し上げます。

市税の還付金でございますが、二十三節償還金、利子及び
割引料におきまして三十七万円の追加をお願いするわけでござ
います。これは四十二年度中の所得、修正決定による減額
のものを法人と個人合わせて十件、還付でございます。
一大ページ十九節負担金補助及び交付金、一十七万円、こ
は千葉県市町村軽自動車税事務取員を共同設置分
担金でございます。

これが最近の自動車台数、増加に伴いまして従来から千
葉県陸運事務所が千葉市に置かれておりましたが、陸
運事務所が七月に船橋市に習志野支所を設置い
たしました。そこにあった分を共同設置事務所を支所に
置いたために、これだけの負担金増加を見ましたので、そ
う請求にたずるために追加をお願いするわけでございます。
次に第三項、戸籍住民登録費、一目十三節委託料にお

きまして二十万の追加をお願いいたしました。

これは本来当初予算に計上すべきものを事務的手違
いから今回追加でお願いしようというものでございます。

御承知のようにアンドカードと年間契約を結ばまいて宛
名印刷の機械であります。エスターの完全なる尊重を
いたしたい。こう考えてお願いするわけでございます。

以上でございます。

調査課長（石渡東君）一六ページ一番上へ賃金でござい
ますが、私に課には現在臨時職が六名入っております。こ
れは御承知かと思いますが、四十五年一月一日を期しま
して土地家産屋の評価がえが全国的に行なわれること
になります。その下準備と申しますか、事前作業と申し
ます。

か、相当の事務量があるというので、やっておるわけ
でござい
ます。が、当初いただきました予算内で何とかこぎつけたい

と思つて努力をいたしました。遂に事務量が残りしました。

三月いっぱいまで続けないと消化できないという見通しでございますので、五十二万二千円、臨時職員の賃金、追加をお願いする次第でございます。

・収納課長（構構功君）第二項徴税費二目賦課徴収費について御説明申し上げます。

原動機付自転車、六五〇でございすが、三台購入をお願ひしたいと考えるものでございます。現在徴収員が八人ばかりいて、この原付自転車が五台しかないでせむ、三台購入したいと考えるものでございます。

なお財源といたしましては金額拠出制国民年金事務費の備品で購入するわけでございます。なお、交付金は、今年度から、こういう原付自転車等が買えるようになってたわけでございます。国民年金の被保険者が一万人以上

の市町村については三台を限度としてこの原付自転車
が買えることになっております。以上でございます。

選挙管理委員会書記長（鈴木力君）続きまして一六ページ
第四項選挙費につきまして御説明申し上げます。

今回予算補正を計上いたしましたのは、一般執行に
参議院議員通常選挙並びに海区漁業調整委員会一般
選挙につきまして選挙執行に関する経費といたしまして
交付を受けました委託金につきまして今回精算的に予
算補正を行なうために計上した次第でございます。

今回補正額は十万七千円でございます。おもなものは、
第三目、海区漁業調整委員会委員選挙費におきまし
ては備品購入費といたしましてキャビネット購入のために
三万六千円新たに追加計上した次第でございます。
三節職員手当九節旅費十節需用費におきまし

では、それぞれ更正を行なったわけでございます。

次に第四目、参議院議員選挙費につきましては、今回、補正額は、十万五千円でございしますが、おもなものは選挙事務の完全を期するために臨時用人を計上いたしまして、五万六千円、開票所の借り上げといたしまして、二万八千円、なお投票所設備に関する備品購入のために備品購入費といたしまして、八万二千円を計上したわけでございます。以上でございます。

庶務課長（山口実君）五目統計調査費について御説明申し上げます。

今回追加額十一万六千円でございますが、これは五羊ごとに施行されます住宅調査に関する調査員の報酬とそれらに要する審査費でございしますが、調査員は三十一人でもって、合計十万八千五百円でございしますが、十萬九千円を計

上いたしました。以上でございます。

監査事務局長（館石勘治君）監査委員費の御説明を申し上げます。八万月補正をお願いしたわけでございますが、内訳としまして賃金三万九千円は決算審査資料を作成するために約二カ月間臨時職員を雇い上げる予定でございます。

旅費四万一千円は年度末まで不足と思われる監査委員旅費と補助職員の旅費でございます。

福祉事務所長（池田亮山君）続きまして第三款民生費について御説明申し上げます。

一ハベージ目社会福祉総務費で十六万一千円を追加でございます。

一節の報酬でございますが、先ほど御説明申し上げました民生委員の推薦委員会委員報酬でございます。

これを十四名のところを二名は職員でございまして十二名の一人当り一千元ということでは本年度は民生委員の改選期でございまして、会議が四回ぐらいあるだろうということでは、四日分を計上いたしております。

次の報償費でございすが、敬老会協力謝礼として二万九千元、これは従来敬老会としてやっておりますのを本年度もそう下り十一節の需用費と同じように老人慰心安ん日というふうに改めまして、この行事の中でお医者さんと土地の民謡保存会等の演芸をお願いしたわけでございします。

両者十一カ所分の謝礼ということで二万九千元を計上したわけでございます。

それから需用費でございしますが、これも同じく老人慰安のための費用でございします。

従来は消耗品十八万四千円計上してございしたが、これを記

食品を廃し、食料費パンを差し上げて一日楽しんでいただくということにかえまして、この不足分を計上したわけでございます。

次に十節扶助費、二万四千円、これは身障者の施設収容扶助費でございます。この身障者を収容するために、毎月額一千円づつ、その施設に交付することになりました。それで、今回二万四千円、四月一日から改正することになりました。おりますので、二分、二万四千円。

二目児童福祉総務費、この中、八節、十一節、十二節、十三節、十四節、合計額、これは十五万でございます。これは青少年のつどい大会の諸経費でございます。前年度は県の主催にありまして、安房支庁の主催のもとに行ないました。本年は市町村単位でこの大会を実施

施するということで補助金が交付されております。

館山市が青少年のつどい大会を主催いたしましたので十五万円
の補助金をもちまして、ただいま申しました各節の合計
十五万、その経費の補助金をもって、その付記に記載して
ございます。経費によつてこの大会を実施したいというもので
ございます。

次の十五節の工事請負費でございしますが、三百二十万円の
追加でございします。

これは青年館建設工事費でございまして、当初予算のとき
に付け加えて御説明申し上げておたかと思つたわけでございます。
ます。かねてから九重の二子青年館と神余の青年館
とが果の認可がありまして、これを追加して青年館の
建設をいたしたい。なお当初予算に相沢と谷藤原とが
建設されておるわけでございます。この二館の分につきま

して相決り当初の計画では三十坪。青年館を建て
 るというところでいろいろ御意見があったわけですが
 二小を地えという折衝いたしまして二十五坪五合の
 青年館に改める。それから谷藤原が地え、都合で
 二小を佐野の部落で青年館をとということでも谷藤原
 の分が佐野に従って当初計上いたしましたもつと若干余
 剰と今回二子神余分と合わせまして、差額の三百二
 十万円を二館分としてここに計上したわけでございます。
 十八節の備品購入費でございます。四十万円。二小は今年度
 はじめてできました。果費補助によるものでございます。
 新規の青年館を建設いたしました場合に一つの青年
 館に対して五十万の果費補助があるわけでありまして。
 それと合わせまして、中の備品費として備品を購入するた
 めにということでも新規建設の一館に対して五十万の果

費さうして市費の五万円合せて一館について十万円ずつ
新しく建てる場合に交付するということ。今回四館分四十
万円を計上したわけでございます。

次の十九節負担金補助及び交付金でございます。

三十六万五千円を追加でございます。青少年相談員連絡
協議会、補助金十六万五千円、これは当初計上しておりま
したものが、これは青少年相談員、活動費として一人四
千円で計上しておるわけでございます。これが本年度は
五千円に改めるということでございます。

従つてその差額の十六万五千円、なお当初百六十名の相談員
を今回百六十一名の相談員になりまして、その差額の
十六万五千円を追加でございます。

次のスポーツ少年団用具購入補助金でございますが、新
たに結成されたものにつきまして用具の購入を補助

一、しているわけですが、当初五万円、五団分の計
上でございますが、本年度新たに結成さしまりましたものが、
十五団分でございます。その不足額が十万円。それから
スポーツ少年団の育成補助金、これは当初三十五万でござい
ました。現在三十一団できております。あと四団程度新
しく結成される見込みがついております。そこで二十五団
分の結成が不足額十万円を追加したわけでございます。
なお連絡協議会の補助金、用具購入費につきましても、
果費負担金として、それぞれ二分の一でございまして、以上で
ございます。

。議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午後三時五十分 休憩

午後四時十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

衛生施設課長(大嶋重義君)一九ページ、四款衛生費でございます。

二項、清掃費でございますが、六十三万七千円、追加でございますが、この内訳を申し上げますと、役務費十三万円でございますが、現在衛生施設課の清掃車が九台あるわけでございますが、自動車一般にいております強制保険といいますが、自賠法関係の保険に入っていない車がロータリーローラーという新しい車でございますが、それと土木課の方から一台移管を受けたトラップがあるわけでございます。この二台が保険に入っておりませんので、この二台分の強制保険料七万八千円を計上したわけでございます。なお手数料は、この二台分の手数料でございます。

それから自動車の任意保険でございますが、これは八台が

入っております。ごみばんに往来いたします。そうした
事故等に備えまして、二八台を保険に入りたいということで二
万八千円を計上いたしたわけでございます。

三目、尿処理費で消耗品費として五十七千円を計上でござ
います。これは、藤原、尿処理場におきます。消化促進
剤、ブリンチムという名称でござります。この促進剤をお
願ひしようというものであります。

この件につきましては、六月、定例市会におきまして、特に夏場
過剰投入に配させていただきます。オバー分に対してこの薬によ
って処理能力を引上げたいということで、予算をお願いし
まして、実施して参りましたわけでござります。

七月からこの薬を入いまして、現在まだ続行中でござります
が、これに対する水質分析結果が参っております。

投入前と投入後、現在まで、四回水を採取しまして、果

衛生研究所に送りまして分析してもらったわけでございます。詳しいことは長くかりますので略しますけれども入る前々七月一日の状態と最盛期といえますか。八月三十日に採取したものを比較いたして見ますと、いろいろデーターが分析されるわけですから法令の上におきましてはBODと一般にいうております。正式にいいますと、生物学的酸素の要求量ということでは言われます。これは端的にいいますと汚水の中には有機物質があるわけでございますが、そういう有機物質があるということではよいがあるということですよ。

そういうものがたくさんありますと水の中にとけている酸素を非常に多く要求するということではこの要求量が多い指数が出ますと、その水質は非常に汚染されて悪いという一つは判定になっているわけでございます。これを分析の上からppmという数値をもって現わしているわけでござ

ございます。これが七月一日に採取したものが、この点におきましては、当時四五キロリットル前後いつておったわけでありまして、これは御承知のとおり、あそこ、施設では、脱離水と混合水と放流水と三つに分けておるわけでありまして、

脱離機というものは、大きな管の中に入れておるものを第一、処理によりまして、固形物と水分に分けるわけでございます。分けた水を脱離液というんですが、この場合はBOD二五〇PPM以下でなければならぬという規定でございます。七月一日には一九五〇PPMであつたわけでございます。

二カ月たった八月終り、計算では、一四七〇PPMという非常に脱離液の状況がよろしいことになっております。

それを出てきたものを水に稀释するわけですよ。

この混合液によりまして、PPMは二三八であつたものが、

最近のものでは一六八というふうに低下しております。

最後に放流水あそこから出た瞬間でう指数はどうかと
いいますと、当初六五・六ppmであつたものがセニちよと上
つておりますが、この辺り教は大體同じということであつてござい
ます。

こういう衛研の分析指数が出ております。六三から五キ
ロリットル多いときはいつておりますが、平均一三
〇%以上投入になつておるにもかかわらず、こういうむしろ
事前の取水よりも低くなつておるということとは当初目的と
した消化と分離作業もよくいつておるということが言える
わけでございます。なお放流水に対します六々ナリセ々
というのは法の上では三〇ppmでなければならぬ。こゝが
リにいった場合には六々、海にいった場合には一ニ々という
規定があるわけでございます。こゝにはちよと違つてお
りませんが、入れた効能は現わいてゐるということがいえる

わけでございます。さらに入れたことによつてあそこには悪臭があるわけでございますが、生し尿的、悪臭は作業員から聞いても前と違つて臭いは少なくなつておるといふ結果も出ております。

それからもう一つ、消化槽の中にはスカムといふかすがたまるわけでございますが、これがたくさんたまりますと、消化分離作業が阻害されるわけでございますが、そういった面についても、やわらかくなつてよいといふ結果も出ております。それからさつき申し上げましたようにオーバー投入の場合についても、十分処理できるということ。それから施設もいたみもなくするといういろいろな点があるわけでございますが、そういうふうな結果が出ておりますので、これは公害にながることでございます。現在ところ四大から五日前後の線で毎日投入されております。こういう結果から見まして

だんだん減っている状況ではございますが、なお一ぱらくこの葉
を前より減らしまして、三カ月ぐらい冬になると少なくなるも
うです。からい入れていき^{たいと}いうことで、今回三カ月分をここに
願いたいわけではございます。よろしく願いたいと思っております。
次に上水道の関係で繰り出し金、二百五十万願いたいわけでは
ございます。

南部簡水におきましては、本管の負担金と言いますか、につきま
しては、一戸一万五千円ということにならうおるわけではござい
ます。

当初加入者六百戸という予定で始めたわけではございますが、
実際仕事にかかったりする過程で、大体八百戸の見込みで
ございます。そういう関係で、二百戸分負担金として、三百万
が、納められてくるという風に相なるわけではございます。

そこでこれを一般会計に寄付金として繰り入れていただく予定
でございまして、これを南部簡水の特に流末工事におき

まゝ距離の關係とか或いは富崎地区におきまゝて若
盤地帯とかコンタリート等もございまゝて当初は私ども
予定よりも設計見積りにいたしまゝてかさむわけでご
ざいます。

そういったことになるべく加入者の流末工事負担を軽くした
ということとで一般繰り出しをして二小に充てていきたいという
ことで繰り出し金をお願いするわけでございます。

そのうちが四十万につきまゝては南部の簡水が公債費につきま
ゝては二小は一般財源で支払うわけでございますが、この公債
費四十万の減額となりますので、この分を差し引いて二百
六十万の繰り出しをお願いしたいというものでございます。
よろしくお願ひいたします。

。農業委員会事務局長（畠山治郎君）農業委員会費今回十
万円の追加でございますが、二小は委員の先進地を視察旅

費として十万円計上した次第でございます。よろしく願ひいたします。

・農林水産課長補佐（石井謀^君）農業費、農業総務費につきまして御説明申し上げます。

役務費、一百万、内容につきましては、通信運搬費について年間、不足を生ずる見込みでございますが、八千円、それから、自動車ナンバー、再交付料でございますが、自動車をかえていただきます。たが、当初ナンバー、交付料を見込みませんで、今回お願いしたい次第でございます。

次に農業振興費でございますが、七万二千元、その内訳で十八節の備品購入費でございますが、二万六千円、図書購入費でございます。

この図書は、病虫害診断防除四巻になっておりますが、これがカラー写真によつて非常に細かく書いてあります。

二を参考にいたしまして、いっそう防除の徹底をはかりたい。
 二う思います。

次に十九節の負担金補助及び交付金でございますが、安房郡
 有線放送連絡協議会負担金三万円でございます。これは
 郡市に十四の放送協会がございます。この代表者にありま
 して結成されておりますが、おもな内容につきまゝては有
 線放送の技術取員の研修、或いは講演会、そういうような
 ものを主体として事業を実施しておるわけでございますが、各
 町村並に市にぜひ負担していただきたいという事で、館山
 市の負担として三万円を支払いたしたいというもございま
 す。

特産物共進会負担金、ごわの共進会の負担金一万円。
 それから農林統計協会、負担金六千円でございまして、
 これは当初予算編成時に申請書がまだ参っておりませ

人関係で今回お願いする次第でございます。

次に四目の畜産業費でございますが、二十八万九千円、追加賃金、百六十六万四千円、これは小規模草地改良事業人夫賃でございます。

当初予算編成のときにおきまして賃金、出し方につきましては、果ては指示されました実施基準に基づきまして一ヘクタール何人というところで計算したわけでございますが、豊房の育成牧場の状況が非常に小竹が多くて人夫が二・五倍、三倍弱かかったわけでございます。そういうわけで今回百六十六万四千円をお願いしたいということでございます。次に需用費でございますが、三十九万八千円、それから委託料の百二十六万六千円、減額でございますが、当初考えておりまして、豊房育成牧場につきましては、三ヘクタールを予定してございまして、ところが部落の一

部で話し合いがまだつきませんためにとりあえず、本年度は二十町歩に計画を変更することを県と協議いたしまして四十三年度については二十町歩を実施するということにいたしました。この委託料要するに機械力と需用費におきましては肥料牧草の種代、こういうものが面積が減少したために二倍だけ減額になったということでございます。

それから十八節、備品購入の二百万、減額当初六十万予算計上、また自動車が一百万安く買ったということでございます。

十九節の負担金補助及び交付金の二十四万九千円でございすが、安房略農振興連絡協議会負担金一十九千円でございすが、これは安房郡市に牛乳出荷団体が十三あるわけでございますが、この団体の代表者

の終意によりまして、連絡協議会というものを持ておる
わけでございますが、研修会或いは講習会等を乳牛・乳
質の改良のために開くために、そういう費用の一部を市で
負担していただきたいということで、各市町村に願いがきており
ます。館山市分一万九千円、家畜防疫検診補助金
二十三万円であります。これは当初三十万円を見込んだわけで
ございますが、鶏のニルカスル予防の羽数あるいは豚コレ
ラの頭数が相当にふえるという見込みがございまして、今
回二十三万円を追加をお願いしたいということでございます。
次に五ヶ農地費でございますが、四十六万円の追加をお願い
したいというところでございます。七ヶ賃金、十万円、これ
は三月の末から、長雨のために早急に修復を要する個
所が市内に二カ所あります。この修復のために十分な
日当ということば払えないわけでございますが、勤労奉仕的

な気持で地元の方々にお願いたしまして、二カ所を早急に修復したいということをお願いいたわけてございます。それから十五の工事情負費、三十六万円、神奈川道修復工事でございますが、先ほど申しました長雨のために豊房育成牧場に参加します。予定地約一〇メートル程度、ところが約一メートルに及んで破損したわけでございまして、自動車や交通等が現在できないわけで、これを早急に改修いたしたいということで、三十六万円お願いいた次第でございます。

次に水産業費でございますが、二の水産業振興費、三十万円、負担金補助及び交付金、三十万、漁協合併促進事業補助金でございますが、現在西岬の十漁協、富崎の三漁協につきまいて合併の推進をしておるわけでございまして、推進費に二十万円をお願いいたしたいということとで

ございます。

そう次に洲崎漁協放送施設事業の補助金でござい
ますが、洲崎の漁港に要所々々五カ所にスピーカーを
取り付けまして、放送施設を設置したいということで、総事
業費三十万円、市から三分の一、十万円を補助しよう
という事で、十万円をお願いする次第でございまして、以上で
ございます。

商工観光課長（山田俊康君）第七款商工費について御説明申
し上げます。

今回補正でお願いいたしました額、二百万、中で更正いたし
まして、財源に使用したものが八十万でございます。合計で
二百八十万となります。

財源は更正で流用いたしましたも、八十万、果費補助九十万、一般
財源、百二十万ということでございまして。

観光案内所ニハ昨年今年にわたつて交通安全都市
宣言をしておりますが、交通の渋滞するところに案内所が
あるのは危険ではないかという指摘をいただきましたため、
現在あります観光案内所自身は三十二年三十三年
ニカ年になつて作っております。つなぎ目が雨漏りして
おります、補修にも相当かかりますが、現在交番があります
隣り移転しよう。もっとも、お客さまに便利に使えるようにと
いうことでお願いする次第でございます。

この中には取りこなし費用の一部も入っております。

それから、駐車場整備工事二百万といひます。城山公
園現在よりくじく園によります。桜並木と自動車の上
まで上つていきます。間にくぼ地になつてるところがあります。
そこを埋め立てて駐車場にする。

それから現在より上に方に中段に駐車場がございます。けし

ども。そこまで上っていきます。右側、下に無断耕作をしてお
る国有地があります。それを整地して駐車場になおそ
うということがあります。それから費用として二百万、こ
が果て補助事業に今回認定になりましたので、お願いし
うということがあります。

それから観光協会が補助金二十万というものが出ておりますが、
これは先般行ないました。まちぐるみワイドショー、一ニチャン平
ルで行ないました。桐生対館山で九月二十二日放送され、ちょうど
今、九月二十七日現在放送されております。二度にわたって放
送されております。これは要しました金額、観光協会として
当初事業計画にはなかったものでありますけれども、とに
かく館山を売り込むには非常にいい機会だからということ
で、熱を入いまして、現実に協会自身がかかった経費は私
の手えでわかつております。ただで五十六万六千七百円かか

っております。そう一部ということて補助いたしたいと思ひます。

なお更正財源に使用いたしました清掃人夫賃、これは夏季対策等々休憩所、管理人とかあるいは夏季対策賃金等を含めて清掃人夫賃四十七万七千円、電気工事等で三十二万三千円、海岸電気工事、スポンサーつきの水銀灯ができましたために財源として浮いたわけでございます。以上です。

土木課長（飯田治男君）八款土木費の補正について御説明申し上げます。

道路橋梁費、道路新設改良費で二百九十八万八千円の追加、これは踏切道の整理統合によります。側道新設工事でございます。正木地内に一カ所と新宿地内に一カ所、計二カ所。正木地内は、国果から一中に下ります。

道路から船形寄りに千湯踏切、リ崎踏切、正木踏切、
三本ございまして、正木踏切が八雲神社から下った踏切で、
この三つを正木踏切に統一する。幅員三メートル、片側二
三メートル、両側四メートルに統一する。

新宿地内の踏切は、安西踏切というものがございまして、
これを廃止して富士橋踏切に統合するもつて、片側に幅
員二・五メートル、長さ四五メートルの側道を新設するもつ
て、こちらの費用を各節に計上してございます。

四項港湾費につきまゝては先に財政課長より説明が
ございましたので省略いたします。

次に二ページ、都市計画費のうち公園費で九万四千円
の追加をお願いするわけでございますが、第一節報酬
これはくじやく園藝審議会委員の報酬でございまし
て、委員が十二名、四日分を見込みました。

十一節の需用費四万六千円。これは城山公園のくじやく園の開園に要する経費でございます。以上簡単にございすが、土木費の説明を終ります。

消防本部次長(岩田実君)九款消防費につきまして御説明申し上げます。

四十七万三千円の補正でございますが、一日常備消防費でございますが、総額二十八万一千円でございます。

五節災害補償費の十五万二千円でございますが、昨年、七月皆さま方に大へん御心配をおかけいたしました消防車の事故の際に一番重傷を負いました柏谷という消防士でございますが、昨年末まで入院治療いたしましたしまして、ほぼ全治いたしました。本年の始めから軽い勤務についておったわけでございすが、本年の六月に患部に疼痛があるということを申し述べ、

りまして、自來、当地で治療したつてございます。が、本人から千葉の労災病院に整形外科の大変いい先生がおるから、そこで治療を受けたいということである。七月二十三日に労災病院に入院したつてございます。が、その入院に要する費用でございまして、当初の診断に^よりますと、約三カ月ぐらい入院したうらいたろうという主治医の診断でございまして、三カ月分、治療費として十五万二千円を計上いたしました。

役務費七万七千円、現在消防署の消防車五台、救急車一台、指揮車一台、七台は自賠法の責任保険には加入してありますが、任意保険に加入しておうなかつたつてございます。が、昨年の事故等にかんがみまして、任意保険に加入いたすことになりまして、この保険料として七万七千円を計上いたしました。

十八節の備品購入費でございますが、御承知のように消防本部に整備工場が付属してありまして、中、役所、車両、消防団、消防署の車両全部修理車検を行なっておりますが、この工場の認証の基準が改正さ小まいてエンジンの調整とかハンドル、調整、そういったものも、むしろ機械によつて調整しなければならぬということに相なったわけでございまして、この認証基準に基づく機械、器具類の購入費でございます。

二目非常備消防費の十萬二千円でございますが、十九節の負担金でございます。

こは先ほど議案六十五号をもつて提案いたしました非常勤消防団員の退職報償金やアップに伴う掛金の増加分でございます。

三目の消防施設費でございますが、十八節の備品購入

費九万円・本年度当初予算におきまして小型動力ポンプ二台の購入を計上いたしまして一台二十万として四十万円計上した。でございますが、この小型動力ポンプ一台につきまして本年度国庫補助が交付されることになったのでございます。国庫補助の条件といたしましてポンプ本体のみでなくホース三本つけなければならぬ。なおかつ小型動力ポンプの規格といたしまして現在購入しようとするのはB三という規格でございますが、基準額が三十万ということに相なっております。

その関係上、当初予算におきましては、ポンプ本体のみ計上いたしましたので、ホース三本つけましてなおかつ基準に達しませんのでさらに五本を追加いたしまして計ホース八本つけまして、この基準額三十万円になるようにいたしまして補助金を交付してもよろしい。というふうに相なった。

わけでございます。以上よろしく御審議をお願いする次第でございます。

教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）十款教育費について御説明申し上げます。

まず、教育総務費で三十七万四千円の追加でございますが十九節負担金補助及び交付金三十六万五千円。この中にはこの二十四日に知事の認可がありまして館山市・富浦町及び三芳村学校給食組合の負担金として三十四万六千円をお願いするわけでございますが、これは組合の経費として一、四十三年度分大体四十二万四千円を予定し、その館山市分として三十四万六千円でございます。それから、次の景市町村教委連絡協議会負担金、郡市教委連絡協議会負担金、これは当初予定いたしましたものであります。確定でございますだけのものがふえたわけ

でございましてこの不足分をお願いする次第でござい
ます。次々十二節の役務費でございしますが、通信運搬費で一
万四千円、これは資料センターのフィルム輸送料、大体一学期で
七千円を必要といたわけてございましてあと二学期、三学期
分一万四千円をお願いする次第でございします。

次は小学校費で五十八万四千円、追加でございしますが、
そのうち賃金十七万九千円、これは本年事務補助の補
佐員としまして富崎小学校、小西祐子、神余小学校、
加藤ふじえこの二名の分、不足分賃金を追加でござい
ます。

役務費で九万円、火災保険料でございしますが、共済金
額の増加、全部で一億五千二百六万二千円、この増加によ
りまして当初予算に計上いたしましたよりも約九万円
多くなるわけでございまして、その分をお願いしたわけでござ

います。

それから、工事請負費で十八万五千円、これは東小學校の石塀と扉の取り付け工事。あの學校は、裏の方の塀がなくて人が自由に出入り出廻るという状態、それから門の扉がなくて自動車がどんどん入ってくるという状態、ございまして、學習にあまりかんばしくない状態、ございますので、その工事とそれから、館野小學校の電気配線工事、これは館野小學校、南校舎四教室に二灯ずつ電気をつける。それから、図書室に四灯つける。それからコンセントを各一個ずつつけるということで、暗い教室の解消にいたわけてございます。

十八節の備品購入費、四万四千円、これは富崎小學校のチャイム、時報用、時計でございますが、これが歯車がかかって使用不能になって、まして現在使っていないので

ございまして、その分としまして二万三千円お願いするとともに、館野小学校の資料室の器具でございしますが、器具の入りものがなくて教室に置いてある状態でございます。それで、その整理のためにお願いする次第でございします。十九節の負担金補助及び交付金五万五千円、これは言語治療教室の教師の研修補助金でございまして、北条小学校に新しく今年堀江静子という先生が参ったのでございしますが、お茶の水女子大に年四十回、これは聴講生として通うのでございまして、その補助金として五万五千円をお願いする次第でございします。

次は振興費の中で十一万七千円お願いしてあるのでございします。これは、北条小学校の安全関係の研究、言語障害児の研究、船形小学校の特殊研究、神戸小学校の保健関係の研究とそれぞれ研究が行

なわゆるわけでございますが、そのうち果から補助が八万でございます。研究関係総額で十一万六千五百円でございす。

それから二四ページ富崎小のトリーシャックス購入費、これは年次計画で購入しておるわけでございす。これは消耗品を更正してトリーシャックスを購入するわけでございす。

次は中学校費で百四十二万七千円でございす。まず、賃金、三十七万四千円、これは学校事務補佐員の二中と一中の賃金関係でございす。

十一節の需用費、七万一千円、これは二中のプールと豊房中プールの浄化装置関係の配管がこわいて水が漏るという状態でございます。修理代として七万一千円、役務費、二万八千円、これは房南中学校の十教室の校舎の火災保険料

でございます。

十八節の備品購入費、七十三万四千円。これは房南中の理科室の教師用、実験机、それから生徒用の実験机、十脚、今普通用テーブルを使つてゐるものでございますが、今度、新しく流しをついた実験に適した机、そういうものを購入するために二十五万一千円。それから視聴覚教室、今度できるわけでございますが、

それに机、椅子を購入するために四十五万五千円。その上、工事請負費で十五万あります。これは理科室関係の上下水道の配管関係の工事費でございます。

それから、房南中の消火器購入として二万四千円。これは、今言いました房南中の十教室の消火器、これは消防署の方からも指摘されてゐるものでございますが、泡沫消火器を六個備え付けるといふものでございます。

それから需用費の七万円、これは二中、理科センター同じく学力研究所関係の予算でございまして、これには二万円の補助がございます。

次は幼稚園費で八万二千円を追加でございしますが、原材料費として二万円、これは各幼稚園を回して大工が修理をするもので、その材料費でございします。

備品購入費が六万二千円、これは教具、教材費の購入費、五万円。

それから幼稚園を建てておるわけでございしますが、その消火器、三個分の金額でございします。それで教具、教材の購入費、五万円に対する補助、これは五万円の補助がございします。

次は社会教育費で二十万四千円を追加でございしますが、これは家庭教育、教育、学級関係の補助が五万円ございします。

その補助の令、講師謝礼と消耗品その他で五万円お願い
いたわけてございます。

それから公民館費で賃金十二万四千円、これは神戸分館の
看守の賃金でございまして不足分をここにお願ひいたわ
けてございます。

それから需用費のうち三万円は那^古分館の雨漏りによる修
繕費でございます。

次は保健体育費で一萬一千円、これは市営プールの管理棟
の火災保険料一千元とそれから建築確認手数料三千円
でございます。よろしくお願ひいたします。

企画課長（谷貝茂生君）第二条の債務負担行為につきまして
御説明申し上げます。

大ページ、館山市の開発公社が市で指定する金融機関
から借り入れたしまして市で委託によりまして開発事

業を実施してゐるわけですが、金融機関に融資する裏づけをしてゐる必要から、四十二年の最終議会で、限度額一億の債務負担行為の議決をいただいてゐるわけですが、公社の事業といたしまして、市の委託事業といたしまして、市民センター用地を一部持つてゐるわけですが、この借入れ金、北条小学校の用地、買収埋め立て、造成等、或いは教育センターの用地、それから、館山幼稚園の関係、そういったことで、大体市の委託事業として一億一千百万円ばかりの借入れ金で、今予想されてゐます。それから、公社といたしまして、宅地造成に、あります。用地の確保ということで、団地造成の事業も考へられてゐます。それから、七、八千万円、相心せられます。で、開発事業といたしまして、委託を受けまして、用地の造成、或いは先行投資として、今後は企業用地の造成を

はからなければならぬということとで開発事業におきましても、
一億一千万からの事業が考えられますので、大体三億近く、金
が予想されることになって参りましたので、なお一中の敷地買収
これらも考えられますので、今まで債務負担行為の限度額
一億までの議決でございまして、たゞこれを四億に補正をお願い
したいのでございます。よろしく願ひいたします。

財政課長(長谷川広治君)以上で歳出面の概略的な説明を
終ります。その総額は先ほど申し上げましたとおり、二千
八十三万一千円という事に相なります。

引き続きまして歳入の御説明を申し上げます。

一ページ九款 国庫支出金 三十九万二千円、十款 県支出金と
総額 二百九十三万五千円、これに一三ページにございます、客
付金 三節 合わせまして二百二十五万。

次、十四款にございます、諸収入、雑入として二万月計上

てございます。この額合わせまして千五十九万七千円に相なりますが、この額は、そのうち現在まで歳出で御説明を申し上げました額に、対応いたしました。そして、そのうち収入を、この予定の金額でございますので、細かくは説明欄により、御了承をいただきたいと思います。

従いまして、三款の自動車取得税交付金、十四款の諸収入のうち、競輪事業収入、二百万が、今回計上いたしました純財源でございます。

三款の自動車取得税交付金において、前回の補正予算において、百二十三万三千円ばかり計上いたしました。が、過日の交付税算定資料の、上から、大体自動車取得税として、年額九百五十万程度のものが、くるということにおおむね見当がつきました。それで、今回財源の関係により、八百二十三万四千円を財源として計上をいたしました。合わせまして、自動車取得税と

一、九百四十六万七千円ということにいたしたわけでございます。
競輪収入におきましては、当初七千二百万円を見込んでおいた
わけでございますが、現在まで三回終了しまして、その配当額は
三千六百五十万ということに相なります。後半あと三回ございま
すが、千葉の競輪が大体前年度よりも相当額伸び
がございまして、総額七千五百万程度ではないかという予想を現
在持っておりますので、財源の關係から、今回二百万を計上
いたしまして、競輪収入年間予想額を七千四百万円という
ふうにいたしたわけでございます。

市債におきましては、先ほど御説明申し上げましたとおり、
借り入れ名目の変更がございまして、港湾整備を漁港
整備負担金事業に切りかえるという財源措置でござい
ます。

歳入追加額二千八十三万一千円ということに相なる予定でござい

ます。以上により一般会計の説明を終らせていただきます。
議長（吉田勇治郎君）議案第七十五号

（書記朗読）

議案第七十五号 昭和四十三年度館山市南部簡易水道事業特

別会計補正予算（第一号）

衛生施設課長（大嶋重義君）議案第七十五号について御説明申し
上げます。

南部簡易水道第一号補正予算でございますが、今回
歳入歳出それぞれ千百六十四万円を減額いたしまして、歳入歳
出をそれぞれ大千五百六十六万六千円にいたしましたと思っております。
ございます。

なお歳入でございますが、追加におきまして四百十五万八千円でご
ございます。

減額するものが千五百七十九万八千円でございます。差し引き

純減額が千百六十四万円と相なるわけでございます。

また、歳入におきましては、追加するものが五百十萬九千円でございまして、減額が千六百七十四萬九千円、差し引き歳入と同額の減額で千百六十四万円でございます。なお、内訳につきましては、のちほど六ページ以下におきまして御説明申し上げます。

次に第二條、第三條におきまして、南部簡易水道は、継続事業でございしますが、継続費の変更と、それから地方債の変更がございましたので、それら今回補正をいたしたいと思うわけでございます。

五ページ、継続費関係の補正について申し上げます。

南部簡易水道事業は、当初の計画におきましては、一億六千二百六十五萬八千円、総額をもつて計画したわけでございます。そうして、四十二年度におきまして、八千五百

三十五万二千円。それから四十三年度におきまして七千七百三十万六千円という年割額によって発足したうでございまして、この事業もいよいよ四十三年最終段階に入つたわけでございまして、今回変更しようとするものは一億三千三百八十三万一千円、総額にするわけでございしますが、相当大幅な減額となるわけでございしますが、このおもな理由でございしますが、当初一億六千二百万円の総額の中には南部水道は当初ダムだけで取水施設をしていく。こういう計画であつたわけでございまして、ダムにおきまして十万吨、貯水量にして、これで水道を敷設するということで一億六千余万の計画ですが、その後十万吨取水は困難であるというふうなことから、大体ボーリング等におきまして、井戸の取水が可能であるということ、で大体井戸を主体にして、合わせてダムで取水源を

求めていくということになった関係で、このような大幅な減額変更をしたということになったわけでございます。

ですから、今度の一億三千三百余万円は、井戸と現在、約一萬一千トン、貯水するところ、ダムで、水源ということ、で、今回、このように変更訂正をいたしたいというわけでございます。四十三年度におきまして、年割額を四千八百四十七万九千円、といたしたいと思うわけでございます。

この内訳でございますが、貯水の堰堤におきまして、百五十二万二千元、連絡道路関係におきまして、百七十一万三千円、それから、取水ポンプにおきまして、二十二万五千元、配水施設、これは、配管でございますが、配管は、大体、終つておりますが、一五〇ミリ以下、配管関係でございますが、これは、二千二百八十一万一千円、道路復旧費が、千二十四万七千円、というのが、大体、工事関係でございます。あと、諸経費が、四百九十一万一千円。

千円。浄水場の整備が五百十八万五千円。それから事務所
 の倉庫をあそこに建てますのが約百二十五万ということ
 で、この本年度の四千八百四十七万九千円の内訳と相対さ
 せるわけでございます。このように変更したいということに
 ございます。

次に地方債でございますが、使用料の縮小によりまして
 事業債でございますけれども、四十三年度に二千万円を
 予定しておりましたのが、減額一千万円にしたいということ
 額の変動でございます。起債についての方法とか利率の
 償還方法については変更ございません。

次にページ補正の内容について、歳出から御説明申
 し上げます。

大体、今度の補正におきましては、さつき申し上げました
 ような減額が大幅のものは、計画変更であるということと

もう一つは、流末工事におきまして、直営でこれをやりたいというところ、追加とあるのは、最終段階になりましたので、いろいろと過不足の願がございしますが、それらを整理していきたいということ、この内容を盛ったわけでございます。

管理費で旅費八万二千円、追加、非常にひんばんに打ち合わせ等もございまして、旅費の不足を生じますので、果関係、或いは厚生省あたりにも参ります。旅費とそれから直営であります。関係で職員が市内出張で、この関係で八万二千円、追加でございます。

備品でございますが、あそこに施設が出来ますと、大体事務所あるいは宿舍等も必要でございますので、それらに要する机、椅子、ロッカー、こういうものを購入していきたい。

それからふと、類も購入していきたいというものが十万七千円でございまして、

次に水道の方の管理費でございますが、維持管理費におきましては、あの施設は大体十一月二十日まで完成したいという計画で進んでおるわけでございます。そういう関係からあるいは、あそこ水道地域が範囲が広いわけでございます。いろいろ直営工事、或いは故障修理等にも遠距離でございますので、どうしても自動車が必要であるというふうなことからお願いするわけでございますが、そこで十八節に小型トラックを五十八万で一台購入したい。それに対するところの燃料修繕料、或いは自動車や保険料等を十一節、十二節にお願いしたわけでございます。次に給水装置工事でございます。一般にいいです。流木工事というわけでございますが、これを直営にする理由でございますが、大体当初の水道を作るときは計画におきましては加入者の負担は本管負担分として戸当り

一万五千元、それから一般用の一センチの口径で加入の場合には、流末工事は一万円ぐらいという線を出して一般に話してあったわけでございます。実際流末工事を実施するに当りまして一戸々々、実地調査をして設計をやって見ますと、富崎地区におきましては、非常に家屋が密集しておりますが、岩盤地帯、或いはコンクリートでほとんど舗装されておるといふようなことから非常に経費がかかる。

それから一方、神戸、神余地区におきましては、岩盤地帯はほとんどないんですが、一戸一戸の距離が長いというふうなことから設計の結果を見ますと、ただいまのところ七百七十一軒加入申し込みを受け付けております。

諸経費、設計費、こういった経費に分けましたものを合計いたしますと、千六百九十四万円余になるわけでございます。

これを加入戸数の七百七十一で割りますと、平均が二万九百

二十五日という数字になるわけでございます。

これは私どもが最初に一般にお話した負担額を相当大幅に上回るわけでございます。二三期のことにおきましても西地区に話し合いに参ったんですが、非常に流末工事が高いということでは困る。今のことだから物価とか人件費等で多ク一百万を越える程度なうということですが、なるべく軽減した方法でやってもらいたいということを再三言われておりました。そうしたことから第一期、富崎地区におきましては、早く夏までに一部給水をするということで一応請負で実施いたしまして、現在富崎地区におきましては、試験通水というかついで八月から通水はいたしておりますが、あと、神戸から神余は第二期、流末工事になるわけでございます。二三期のことからいろいろ計画も立てております。私どもで軽減して可能な数字はどうか。作業員も職員

で多ク時間がかかるけれども、やるということに持っていきます。
と、大体、プールにしまして、一戸当り一万三千円ぐらいで上る
という見当がついたわけでございます。そうしたこと、直営
工事をやうて参りたいと思うわけでございます。こういうことで
今回第二目にかまうに計上いたしたわけでございます。
そういったこと、でお願いいたします。七、節、賃金で八十万、夫賃で
ございまして。

それから委託料、これは流木工事の専門家に設計委託を
してもらいますのに不足しますんで、三十五万四千円、それから
工事請負費、これは給水装置工事とあります。これは大
体道路復旧とか、あとこれはアスファルト関係もあっております
ので、そういう舗装関係、砂利道等につきましては、請
負でござい、いき、たい、という、こと、で、計上、して、おり、ます。

それから給水工事、ためり材料費、百八十八万円でござい、ます。

が、このおもなものはパイプが主でございす。

あと取水栓とか蛇口等が材料費の内容でございす。

次に三十二万は、量水計、メーターでございす。これは前に

買ったものがございすので、あと不足分、二百個不足しま

すので、一個千六百円、これを二百個分三十二万ということだ

大体給水工事を実施したいと思うわけでございす。

それから水道の建設費でございす。千六百三十一万三千円

の減額でございす。そのものは十五節工事請負

費でございす。当初六千三百八十万計上であつた

わけでございす。千五百九十三万六千円、引きます。

と実際には四千七百八十六万四千円となるわけでございす。

これがさつき申し上げました四十三年度分の事業になる

わけでございす。

あと十三節以下ものは大体工事もこゝろは終ります。

—たので、整理をするわけでございます。

公債費で四十万の減額でございますが、これは水道工事につきましては、四十二年度工事におきまして、国が財政事情によりまして、繰り延べを受けたわけでございます。これが二千万、大百万の事業量でございますが、そういう関係で国々、起債が滞りてきておるわけでございます。

それで、今が四十万当初の計画に對しまして、ついてきたというところで、減額をいたしたい。こう思うわけでございます。次に歳入にもなりますが、七ページ。

議長（吉田勇治郎君）会議時刻も迫りましたが、今、際、会議時間を延長いたしたいと思ひます。

—に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって、会議時間

は延長されました。続いて説明を求めます。

衛生施設課長(大嶋重義君)御説明申し上げます。

負担金でございますが、これは今回百五十五万八千円、追加ですが、さっき申し上げましたように給水工事の負担金として一戸当り一万五千円ということでは八百戸見込まれておりますので、これが千四十六万になるわけでございます。

その差額を追加しようというものでございます。

それから大款の繰り入れ金でございますが、これは一般会計から先ほど御説明申し上げました繰り出し金をここに計上したものでございます。一戸一万五千円でございます。

あと国庫支出、県支出の補助金関係あるいは市債等は、この事業の変動に伴いまして減額でございます。

都合差し引きまして歳入におきまして合計が千五百六十六万六千円と相なるわけでございます。歳出におきましても

合計で同じく六千五百六十六万六千円ということでご覧います。
なお一番最後でございしますが、継続費についての調書を六月
の定例市会るときに御報告申し上げたわけでございしますが、
継続費に変動を生じましたので、それに伴いまして、四十三
年度う全体計画につきまして、変動分をここで更正
をいたしたくここに計上いたしましたので、詳細はこの該当
欄によつて御了承いただきたいと思います。以上で説明を終ります。

議長（吉田勇治郎君）議案第七十六号

（書記朗読）

議案第七十六号 昭和四十三年度 館山市国民健康保険特別
会計補正予算（第一号）

豊房診療所事務長（野中圭太郎君）御説明申し上げます。
本案は直診勘定、補正でございまして一番最後、五

ページをお願いいたします。

歳出でございますが、総務費、一般管理費のうち、寄付金といたしまして、十萬、これは来る四十三年、十月十二日、及び十三、十四、三日間にわたりまして、千葉県文化会館及び千葉大学記念講堂におきまして、第三十回日本臨床外科医学会、総会が開催されます。

本年度は、千葉大学の主催でございますが、果下各施設、一施設、当り大体十萬程度の協力、及び依頼がございます。たゞ、ここに計上いたしたものでございまして、

この歳入といたしましては、四十二年度の繰り越し金を充當いたしましたと思ひます。よろしくお願いいたします。

議長（吉田勇治郎君）以上で説明を終りました。

本日の会議はこれにて延会といたします。

次会は九月三十日午前十時開会といたします。その議事は

本日に引き続き各議案を審議並びに追加議案等といたします。

午後五時三十五分 延会

今日の会議に付した事件

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名員を決定

一 会期決定

一 市長議案提案説明

一 請願書

一 行政一般報告質問

一 議案第六四号乃至議案第七十六号 内容説明

出席議員

吉田勇治郎

石井輝久

嶋田石蔵

伊賀多朗

藤田益治

磯辺博

白熊盛太郎

黒川正

三幣勇

西村真次

小柴孝

山田教宇

遠山ヨネ子

石井正

五十嵐昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

小澤恵太郎

飯田義男

田中禄郎

田村源治郎

秋山大三郎

安沢徳順

望月照正

鈴木市蔵
山口康

欠席議員

菊井敏博
関武夫

